

パプアニューギニアの森の破壊と村人の生活の今 — 森は生命の源 —

ポール・パボロさんは、原生林を守るために生命がけの活動を続けてきた。村々の人々と共に、不法な伐採企業に抵抗し、暴力を振るわれても怯むことなく、伐採企業を訴えた裁判を起こし、今に至っている。

パプアニューギニア各地では、1970年代から日本企業やマレーシアの伐採企業による昼夜を問わない伐採と丸太輸出が行われてきた。輸出された丸太の60%が日本行きで、日本で合板(特にコンパネ)となって建築現場で使用され使い捨てられてきた。現地からの丸太輸出先が中国中心となった現在も、日本はアジア・中国経由の膨大な合板輸入を行い、最大の熱帯材消費国であり続けている。

日本の私達の住まいと暮らしが、ポール・パボロさんたちの最後の原生林をも消そうとしている。彼は多忙を縫って連帯を求めて来日する。



写真: ポール・パボロさんと子供たち



写真: 清水靖子と子供たち

• お話し ポール・パボロさん

(1972年パプアニューギニアのニューブリテン島ムー村生まれ)

- 通訳 清水靖子(メルセス会修道院)
- 司会 池田光司(企業コンサルタント・広路教会会員)

とき：2017年7月2日(日)

午後1:30～3:30

会場：日本基督教団 名古屋中村教会

参加費：無料・カンパ歓迎



主催：「パプアニューギニアとソロモン諸島の森を守る会」

会場：名古屋中村教会(名古屋市中村区中村町6-43-2 TEL:052-411-8024)

問い合わせ：東京都品川区西五反田8-10-14イトーピア五反田206(辻垣まで) TEL:03-3492-4245